

情報収集・ 情報共有は 防災の第一歩



防災行政無線

避難情報など、市の重要なお知らせを放送します。聞き取りにくかった場合でも、放送内容を電話で聞きなおすことができます。

専用ダイヤル ☎248-2288



防災情報お知らせメール

各種注意報や警報、土砂災害警戒情報、地震情報、避難勧告、その他防犯上必要な情報などをお知らせします。

合志市防災情報お知らせメール

bousai.koshi-city@raidan.ktaiwork.jp

※防災行政無線で放送される情報も配信します。

※QRコードを読み取るか、上記アドレスに空メールを送信した後、届いたメールに従って登録してください。



熊本県統合型防災情報システム

県内の雨量や気象情報をリアルタイムで提供します。

<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp>



※いずれのサービスも登録料や情報料は無料です。通信料や通話料は利用者負担となります。



非常時持ち出し品などのチェック

非常時持ち出し品

いざというときにすぐ持ち出せるよう、リュックサックなどにまとめておきましょう。

- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 電池
- 電池
- 非常食(乾パン・缶詰)
- 現金
- 飲料水
- 通帳・印鑑
- 紙皿・紙コップ
- 健康保険証
- 食品用ラップ
- 運転免許証
- 救急セット(ばんそうこう・風邪薬など)
- 粉ミルク
- 持病の薬
- ベビーフード
- マスク
- 紙おむつ
- おしりふき
- 携帯電話・充電器
- 洗面用具
- タオル
- ヘルメット・防災頭巾
- 衣類(上着・下着)
- ライター・ろうそく
- 生理用品
- 毛布
- ウエットティッシュ
- 雨具
- ビニール袋
- 防災マップ

備蓄品

ライフラインがストップする恐れもあります。最低3日分を準備しましょう。

- 飲料 (1人1日3ℓを目安に)
- お米(レトルトやアルファ米)
- 缶詰・レトルト食品・ドライフード
- 梅干し・調味料
- チョコレート・アメ
- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 洗面用具
- トイレtpトペーパー
- 毛布・寝袋
- カセットコンロ・ガスボンベ・固形燃料
- 調理器具(鍋・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

予防的避難で危険回避



市は、土砂災害警戒情報が発令された場合や、堀川が危険水位に達した場合などに自主避難所を開設します。次のうち、状況に応じて必要な施設を開放し、防災無線や防災メール、市ホームページでお知らせします。事前に場所とルートを確認し、予防的避難を心掛けてください。

施設	所在地・電話	施設	所在地・電話
ヴィーブル	被災のため使用できません	御代志市民センター	御代志1661-16 ☎242-1190
泉ヶ丘市民センター	幾久富1947-7 ☎248-3453	保健福祉センター「ふれあい館」	須屋2251-1 ☎242-7000
福祉センター「みどり館」	栄2371 ☎248-0400	黒石市民センター	須屋2788 ☎242-2321
合生文化会館	合生3616 ☎242-3218	須屋市民センター	須屋1399 ☎346-4112
野々島公民館	野々島4855 ☎242-1636		

! 夜間や、暴風雨の中の避難は大変危険です。足元が確認できる明るいうちに、2人以上で早めの避難を。



! 避難所への移動(水平非難)が難しい場合は、浸水や土砂災害から逃れるため、自宅2階など高い所に避難する(垂直避難)という判断も必要です。



日ごろから 家族・地域で話し、声を掛け合う



万が一に備え、日ごろから家族の行動、避難場所や避難方法、経路、連絡方法などをよく話し合っておきましょう。また、避難の際は、独り暮らしの高齢者など近所の人にも声を掛けましょう。「一緒に避難しましょうか」という声掛けは、これだけでも立派な共助活動になります。

- 家の中ではどこが安全か
- 救急医療薬品や消火器を備えているか
- 避難するとき、何を持ち出すか、持ち出し品はどこに置くか
- 避難場所はどこか、どこをどのように避難するか
- 家族間の連絡方法と、最終的に会う場所はどこにするか
- 昼の場合と夜の場合の避難方法、など



合志市防災マップ

土砂災害や冠水など市内の危険箇所、避難所を地図上に掲載。ご家庭・地域の防災計画にお役立てください。総務課(合志庁舎)、西合志庁舎総合窓口課、各支所で配布しています。

情報収集、事前準備、心構え。これらは自分でできることです。熊本地震以降も、余震や豪雨が続き、今後は台風の襲来も予想されます。命を守るため、一人一人が防災を生活の一部と考え、行動することが必要です。そして、自助ができたなら共助

を意識。災害時は助け合いが不可欠です。避難時の声掛けも、足りない物資の分け合いも、温かい励ましも、全ては人と人とのつながりから生まれます。もしものとき、誰かを手助けするのはあなたかもしれません。集めた情報と日ごろの備えで、自分と家族、地域を守りましょう。